

雲仙普賢岳噴火災害を語り継ぐ

The activities passed down the volcanic disaster on Mt.Unzen
to younger generation

島原半島ジオパーク

事務局長 杉本伸一

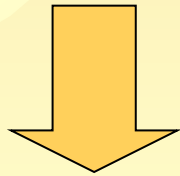
Unzen Volcanic Area Geopark promoting office

Director Shin'ichi Sugimoto

なぜ災害を語り継ぐのか

- 私たちが体験した噴火災害時の混乱や苦しみを教訓として生かし、噴火の時に私たちと同じような思いをしないでほしいと願っているからです。

災害体験や教訓



減 災

災害を語り継ぐ3つの取組み

- 同じ地域で語り継ぐ
(次世代へ)
- 他の地域で語り継ぐ
(体験や教訓の共有)
- 防災担当者に語り継ぐ
(体験や教訓の共有)

同じ地域で語り継ぐ(次世代へ)

- 火山は、われわれ人間の寿命をはるかに越えたサイクルで活動しています。今回の噴火は200年ぶりの噴火で、前回の噴火を体験した人は誰もいません。
- 地震や台風などの他の自然災害と比べ発生頻度が低い火山災害に対応し、火山と共存するためには、火山災害に対する日ごろからの防災対策が非常に大切です。

市内の学校で語り継ぐ

- 噴火から20年近くが経過し、噴火災害を知らない子供たちに、雲仙普賢岳の噴火災害の体験と教訓を各学校などで語り継いでいます。



修学旅行生などへ災害の語り継ぎ

- 災害看護学実習：県立長崎シーボルト大学が毎年実施
- 目的は、医療施設と行政等における防災・災害に対する活動を理解し、災害サイクルに応じた看護活動を展開する基礎的能力を養う。
- 雲仙普賢岳の噴火災害の避難生活などについての講話と、被災現場及び避難施設などを見学しています。

他の地域の人に語り継ぐ (体験や教訓の共有)

- わが国は災害の多い国です。雲仙普賢岳噴火災害の後にも、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災が発生しました。また、有珠山や三宅島が噴火し多くの人が避難生活を余儀なくされました。
- 火山であれ地震であれ、避難している住民にとっては災害は同じようなものです。

お互いの災害体験と教訓を活かし合う

伝える

大分県は13年を前に

中

NPO島原普賢会監事で島原市災害対策課長補佐の杉本伸さん(53)は一月、約八百人の犠牲者を出したフィリピン・ピナツボ火山の被災地を十日間にわたって訪れ、開発途上国の経済社会整備などを支援する国際協力銀行(本店・東京)が主催する「国民参加型援助促進セミナー」で、現地の人々に普賢岳噴火災害の体験と復興の取り組みを話したのだ。

杉本さんのフィリピン行きは約四年ぶりで二度目。被災地の状況は、改善するどころか河川の下流域で泥流被害が拡大していた。普賢岳噴火から約七か月後の一九九一年六月に噴火

国外の復興にも協力

れていた。杉本さんの目、かつて島原で見た風景が重なって見えた。地元の四十歳代の役場職員に出会った。自宅が泥流



杉本さん

「一六七年間トラウマ(心的傷害)に苦しんだ。彼の告白を聞いた時、普賢岳噴火災害最大の被災地となった島原市安中地区の公民

フィリピンの子供たちと植樹する杉本さん

館に勤めていた当時の体験が、杉本さんの脳裏をよぎった。九一年六月三日の大火山で、顔見知りの消防団員を亡くし、その後七、八年間は、人々が火砕流に襲われる夢を見続けたからだ。

「日本から遠く離れたところで自分と同じ体験をした人がある。次の災害で被害を少しでも防ぐために、体験を伝える活動ができる

とができたはずの二次災害が多い。古里の歴史や文化を重んじる人々にとって、家を離れることは勇気がいる。「うちの家だけは丈夫」という意識も強い。しかし、杉本さんが現地で体験を語り継ぐ活動の必要性を訴えた時、人々は関心を示してくれた。次の世代には自分たちと同じような災害には遭わせたくないという思いは共通を感じた。

「復興はまだ先だが、明るい表情で日々を、ましく生きるフィリピンの人々に学ぶことも多い。もっと被災者が交流をする場が必要だ」。日本ではあまり現状が知られていないフィリピンの噴火災害、杉本さんは、体験を踏まえ、現地の実情にあった復興のアイデアを人々に提供し続けるつもりだ。

■ 各地の火山地域 ■ フィリピン・ピナツボ 2004年

防災担当者に語り継ぐ

- 実際に火山噴火等を経験した地方公共団体は少なく、我が国を見渡しても、噴火時等の防災対応に当たった実務者はごく少数です。
- そこで、地方公共団体等で火山防災対応の主導的な役割を担った経験のある実務者等が、**火山防災エキスパート**として各地の火山防災対策の立案等の支援に当たることとするものです。

防災からジオパークへ

- 島原半島は2009年8月、世界ジオパークに認定されました。

ジオパークは、地球に触れ、その成り立ちが体感・学習できる「野外博物館」です。

- ジオパークは、地球に触れ、その成り立ちが体感・学習できる「野外博物館」です。
- 地形や地質、地層だけでなく、その恵みを受けて生活する人々の暮らしや歴史・文化・地元の特産品などが“展示”されています。

火山との共生

- 島原半島ジオパークのメインテーマは火山と人々の暮らしです。



火砕流



土石流



死者行方不明者44名
焼失家屋820棟



被害家屋1,300棟

砂防事業

複数の導流堤、治山ダムなどが、火山の麓で暮らすための防災・減災対策の施設として築かれている。

ダム群



導流堤



スリットダム



火山の恵み

湧水と水利用 の文化



水はけに優れ
畑作に適した土壌



小浜温泉



雲仙温泉



島原温泉



三つの異なる泉質の温泉

(食塩泉、硫黄泉、炭酸水素塩泉)

島原の災害をムダにしないために

- 雲仙普賢岳の多くの犠牲と被害を取り戻すことはできません。しかし、それを今後の災害において減災に活かすことができれば、ムダにはなりません。
- この島原で、そして日本の各地で、さらに世界のかくちで、同じような悲劇が起こらないことを願い、今後も雲仙普賢岳の体験と教訓を語り継いで行きます。